

F P まつもと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

東日本大震災から13年経ちました。また今年元日の能登半島地震も大きな被害をもたらしましたね。

地震が起こった時の避難経路や連絡方法などについて家族で話をしていますか？

春は卒業や進学、就職や転勤などで通学先や勤務地が変わる季節です。年度変わりのこの時期、家族で防災会議を開いてはいかがでしょうか？

また、卒業や進学はライフプランが変わる時でもあります。保険の内容を確認することも忘れないでください。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

SNS上には多くの金融詐欺広告が掲載されています。正しい知識を身に付け金融詐欺にあわないようにしましょう。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
<https://fp-matsumoto.com>



家計調査

先月6日、総務省は令和5年家計調査を発表しました。ぎょうざやラーメンの消費ランキングが話題になっていましたね。

ランキング以外で気になったのは消費性向の推移でした。消費性向とは可処分所得に対して消費に回している金額の割合を表したものです。

下図は2000年からの可処分所得と消費性向の推移を表しています。



2010年代後半から可処分所得は上がっている一方消費性向は大きく下がっています。医療・年金・介護などの社会保障に対する将来不安、教育資金準備の不安からこのような傾向が出ているのかもしれない。

将来の不安をなくし今も充実させるためにも適切な金融商品の活用が大切になるのではないのでしょうか？

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勤める、“確定拠出年金”や“NISA”（少額投資非課税制度）を活用した「長期・つみたて・分散投資」+「取り崩し」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『NISA活用セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

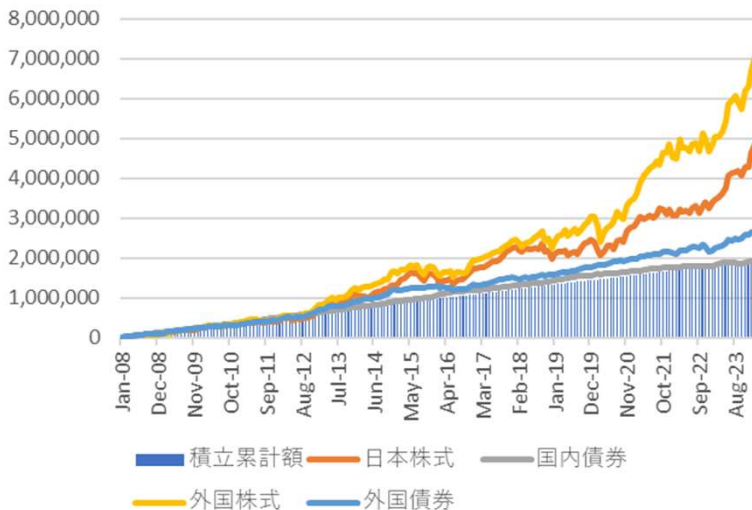
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

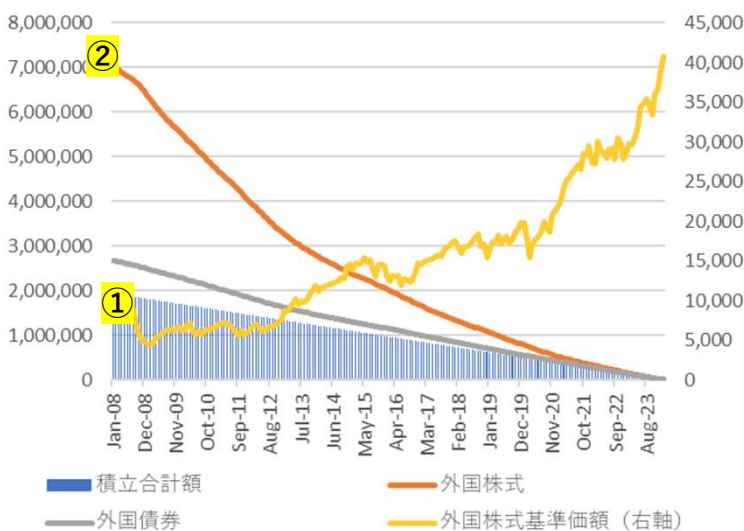
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Dec-23	Jan-24	Feb-24
積立累計額	1,920,000	1,930,000	1,940,000
日本株式	4,291,462	4,634,650	4,871,209
国内債券	1,912,651	1,908,124	1,923,622
外国株式	6,306,785	6,698,952	7,029,107
外国債券	2,586,027	2,640,538	2,683,562

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できます。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①194万円（青棒）は2024年2月に②702万円（オレンジ線）、約3.61倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えることができます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,698,367	2014年3月	～	2024年2月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,298,540	データ数：75		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

日経平均株価、バブル期の高値越え

	日経平均		NYダウ		ドル円
Dec-23	33,464.17	-0.07%	37,689.54	4.84%	141.00
Jan-24	36,286.71	8.43%	38,150.30	1.22%	146.92
Feb-24	39,166.19	7.94%	38,996.39	2.22%	150.00

2月の株式市場は日米とも上昇しました。特に日本株は1989年12月の38,915円を34年2か月ぶりに上回り史上最高値となりました。

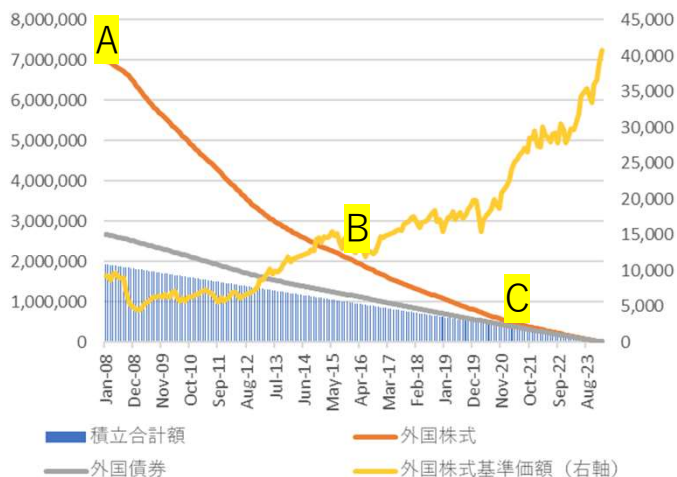
株価が上がると「バブル」と感じるかもしれませんが1990年ごろの日本株のPERが60倍～70倍だったのに対し、現在は15倍～20倍程度と企業の利益に見合った株価水準と言えるのではないのでしょうか？

PERとは、株価が一株当たり利益の何倍になっているかを表す指標で、一般にこの数値が高いと割高、低いと割安、と言われます。

利益確定したくなるのは誰？

大きく値上がりすると一度利益確定したくなるかもしれませんが長期の積立投資では株価水準にかかわらず積立を継続することが大切です。

下図は1ページ目に記載している積立開始時期と投資成果の関係を表したグラフです。積立開始時期が異なる3人のケースを見てみましょう。



	Aさん	Bさん	Cさん
積立開始時期	Mar-09	Mar-16	Mar-21
積立合計額	1,800,000	960,000	360,000
現在の評価額	6,203,705	1,976,194	492,570
	3.45倍	2.06倍	1.37倍

Aさんはリーマンショック後の2009年3月から積み立てを開始。数年間マイナスの時期が続きました。2012年に戻ってきたときに恐らく、「やっともとに戻った。一度利益確定しておこうか」と考えたのではないのでしょうか？

何回かこのように「1度利益確定しておこうか」と思った時期があったかもしれませんがそれでも15年我慢強く積立を継続した結果、投資額を3倍以上に殖やすことができました。このぐらいになると利益確定などはあまり考えなくなると思います。

Bさんは2016年に積立開始、2019年まで順調でしたが2020年にはコロナショックで大幅下落、コロナ前に戻った2020年秋ごろにもしかすると利益確定を考えたかもしれませんがそれでも我慢して継続した結果、投資額を2倍にすることができました。2倍になったという成功体験とまた下がったらどうしよう、という気持ちが混じっているかもしれませんね。

Cさんは2021年、コロナショックからの回復が終わりインフレ、金利上昇という株式市場にとっては厳しい環境下で積立開始しました。積立ても積立ても殖えず、積立金額を下回る日が続いていましたが昨年秋以降やっと積立金額を上回り、このところの上昇相場で3割ほど利益が出る状態です。まさに利益確定のタイミングと感じているかもしれませんがAさんのようになれるかどうかはさらに我慢ができるかどうかにかかっています。

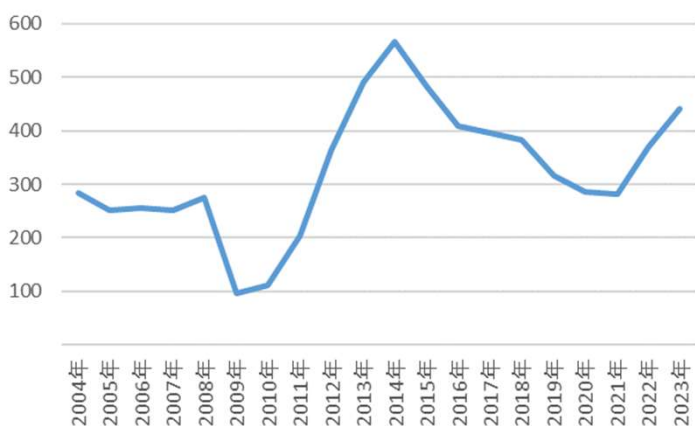
我慢から解放されたときに利益確定したくなる時ですが同時に我慢のしどころでもあります。Aさんのようになれるかどうかはこれにかかっています。利益確定とは、ただの「現金に投資する」行為であるということをお忘れなく。

ちょっと気になるお金のコラム

特殊詐欺被害額 441.2億円

先月警察庁が発表した令和5年の特殊詐欺犯罪の被害額は441.2億円でした。下図は2004年から2023年までの特殊詐欺被害額の推移です。

2014年の566億円をピークに減少していましたが一昨年から増加傾向に転じ昨年は441.2億円と前年比70.4億円の増加となりました。



主な手口別の被害額は、オレオレ詐欺130.4億円、架空料金請求詐欺138.1億円、還付金詐欺51.3億円、被害者の78.3%が65歳以上の高齢者、犯罪の一番最初に用いられた欺罔ツールの77.4%が電話でした。

検挙された2499人の17.6% (446人) が少年でした。検挙された少年の71.5%が受け子として犯罪組織に利用されていました。

「犯罪実行者募集の実態」(警察庁)によるといわゆる闇バイトに応募し犯罪行為に加担するようになる流れの中で最も多いのは以下のパターンようです。

- ① 自ら SNS で「高額報酬」等を検索・応募
- ② 犯行グループから連絡が入り、以降、匿名性の高いアプリでやりとり
- ③ 犯行グループに言われるがまま個人情報を送信
- ④ 犯罪行為への加担を拒否すれば犯行グループが個人情報を基に脅迫

SNSが犯罪の入り口になるケースがある一方SNSが詐欺被害の入り口になるケースも増えているようです。

SNS上の実在の金融機関の名称やロゴ、著名人の写真などを無断使用した金融広告から、LINEグループや情報商材サイトへ誘導したり、個人情報などを不正取得したりするケースが多くなっています。

経済的に成功した著名人、経済評論家などが「投資で成功するための特別に指南するグループを作る」と言う広告を目にするとつい内容を知りたくなってしまいますよね。

グループに登録すると「先生の指導で儲かった」「あなたもやった方がよい」などというサクラ会員からの働きかけや先生による特別な情報提供などがあるそうです。

先生の特別情報で利益が出るのですが、これは古典的な手口で会員Aには上がる、会員Bには下がる、と発信すると必ず半分は当たることになります。これを2、3回繰り返すとある会員から見るとすごい先生に見えるようになる、という仕組みです。

報道によると千万単位の被害を受けている人も多数いるようです。

老後資金準備への不安、長寿による資産寿命を延ばす必要性、などから冷静に見れば怪しいとわかるものに飛びついてしまうのかもしれない。

正しい知識を身に着け適切な金融商品を利用してしっかりと準備をしていきたいですね。

